

がん診療における影響調査

厚労省23年度から 敷遠増受け

新型コロナウイルス感染症の流行で、がん検診の受診や治療を控え、悪影響が出ている懸念があることなど、厚生労働省が2023年度から、がん患者の健康に対する中長期的な影響の実態調査を始めた」とが3日、分かった。結果を基に、「新規感染症=★NEWSの蔓延」が進行した際に国や自治体が取るべき対策をまとめた指針を作成する方針。

高齢化により、がんは増加傾向。だが厚労省による20年度のがん集団検診の受診者数は、新型コロナ禍前の3年間の平均と比べて、五つの部位で2～3割減少した。また胃がんや大腸がんなどの外科の治療数も減っている。

新型コロナによる影響は

大きさとみられ、今後、がんの発見が遅れて進行した状態で見つかったり、治療が遅れたりする人が増える懸念がある。

そのため厚労省研究班

で、がん検診の受診率低下などにより、治療の遅れがどの程度生じたかを分析。担当者は「新型コロナが、

【4面に連記事】

う必要がある。分析結果に応じて必要な対応を検討したい」と話している。

厚生労働省 調査による がん集団検診の 受診者数の推移	2017～19年度の 平均受診者数		20年度の 受診者数
	2017年	2018年	2019年
胃	214万人	141万人	
大腸	357	279	
肺	441	316	
肝臓	150	111	
子宮	120	86	

1/4 火

がん診療、コロナ影響実態調査へ

次の感染症有事に備えを

解説

厚生労働省が、

拡大が相次いでいることが
ある。今後の有事を見据え、

【一面に本記】
新型コロナウイルスの流行によるがん診療へ
検診や治療を継続していく
ための医療体制を早急に構

の影響を実態調査する背景には、近年、新興感染症の
築しておいく」とが求められ

対策推進基本計画案」では、

感染症のまん延で一時的に
検診の提供体制を縮小した
場合でも、状況に応じて速
やかに受診行動を回復でき
るよう平時から対応を検討す
ること掲げられた。

新型コロナの流行では、
実際にがん検診受診者数が
一時大きく減少。自治体な
どの努力で、その後回復し
たとされるが、戻り方が鈍

いとの指摘もある。

重症急性呼吸器症候群
(SARS) や新型インフ
ルエンザなど、00年以降も
国際的な脅威となつた新興
感染症は多い。新型コロナ
の反省を踏まえ、今後、新
たな感染症が流行した際に
も、国民がためらわずに検
診や治療に行けるよう対応
を定め、その内容を周知し
ておく必要がある。